

第4章 先進的な事例調査

本章では、二次交通の整備について先進的に取り組んでいる事例とその効果を紹介する。4.1では事例の概要を、4.2では優れた事例について詳細な内容を整理した。

4.1 事例の概要（事例一覧）

本節では、二次交通の整備・拡充に関する事例の概要を整理した。

表 4-1-1 二次交通の整備・拡充

路線名称	概要、特徴（工夫した点）【都道府県、国】	掲載
空港と観光地を結ぶ乗合タクシー等		
あきたエアポートライナー	秋田空港と主要観光地を直接結ぶ8路線の事前予約制の乗合タクシー。地元の観光協会、交通事業者、空港関係者、観光業者等から成る任意団体が運営。集中予約システムを導入。【秋田県】	P. 30 (1)
いわて花巻空港エアポートライナー	いわて花巻空港を発着地とする6路線（観光地含む）の事前予約の乗合タクシー。花巻市内の7社の運行会社が共同で運行。【岩手県】	—
能登空港「ふるさとタクシー」	能登空港を発着地とする事前予約の乗合タクシー。能登地域の5つの運行ゾーン別に5社の運行会社が運行。運賃は行政区域ごとに5種類の運賃ゾーンを設定。人数の多い場合はバス車両を使用することもある。【石川県】	P. 35 (2)
まっすぐタクシー	庄内空港と特定区間の観光地を結ぶ予約制の相乗りタクシー（グループ利用）。【山形県】	—
松島行き空港リムジンバス	仙台空港～松島を直接結ぶ空港リムジンバス。【宮城県】	—
都市間高速バス路線の観光地への延伸		
高速バス（仙台～庄内線）の湯野浜温泉への経由	都市間高速バス（仙台～庄内線）について、1日1便を鶴岡市経由から湯野浜温泉経由に変更した。【山形県】	P. 37 (3)
バスターミナルの整備（交通結節点の利便性向上）		
庄内地域の高速バス停のターミナル化	鶴岡IC（庄内物産館）バス停をターミナル化し、高速バス、路線バス、小回りの利く観光乗合タクシーの運行を実施。パークアンドライド駐車場が狭くなったため、平成18年度より拡張工事を行っている。【山形県】	P. 38 (4)
栄バスターミナル（オアシス21）	交通結節点の利便性向上。地下商店街、地下鉄と路線バス、都市間高速バスの乗継ぎ。国のガイドラインに準拠したサインシステムを整備。【愛知県】	—
S-MALL（バスターミナル）	交通結節点の利便性向上。ショッピングセンターに隣接し、都市間高速バスと観光地への路線バスの乗継ぎが可能。【山形県】	—

表 4-1-2 二次交通の整備・拡充（その2）

路線名称	概要、特徴（工夫した点）【都道府県、国】	掲載
交通拠点からのホテルバス		
花巻温泉無料シャトルバス、無料観光バス	新花巻駅～花巻温泉間（複数ホテルを経由）の無料シャトルバス。また、花巻市観光協会との連携により、無料観光バスを運行。ボランティアガイドの同乗あり。【山形県】	—
湯の川温泉行きめぐりっこ	湯の川温泉街のホテル・旅館を巡る、有料の循環バス。ルート内での降車は自由で、経由しないホテルでも最寄の場所での降車が可能。函館バス株式会社が運行。【北海道】	—
生活交通路線の活用		
しずくいしデマンド「あねっこバス」	町内の生活交通の確保のため、JR 雫石駅を起点に町中心部から放射状に 6 路線を運行。乗合方式のデマンドタクシー。行政（雫石町）からの委託を受けて NPO 団体（いわて NPO センター）が運営を行っている。道の駅（雫石あねっこ）にバス停、及び予約専用直通電話が設置され、道の駅でチケット（回数券）の購入もできる。【岩手県】	P. 40 (5)
醍醐コミュニティバス	醍醐地域のコミュニティバス。醍醐駅と観光地（世界遺産の醍醐寺等）を直接結ぶ路線を運行。低床の小型バスを使用し、車いす用の昇降リフトも装備。【京都府】	—
鉄道とバス等の乗継ぎ円滑化（運行ダイヤの接続の連携）		
三陸鉄道田野畑駅・村民バスとの乗換え	三陸鉄道カンパネラ田野畑駅では、鉄道から待ち時間無く乗換えられる村民バスが運行されている。【岩手県】	—
富山ライトレール・フィーダーバス	LRT とフィーダーバスの乗継ぎ、ダイヤの接続。 富山駅等の全ての電停で、海水浴場等のあるフィーダーバスの路線、運行ダイヤ（接続列車）の情報を提供。【富山県】 （写真）フィーダーバス LRT と同一ホームで乗換可能。 6：30～24 時まで運行（1 時間間隔）	 
観光地内を回遊・循環するバス路線		
松島循環 100 円バス	松島の観光地内を循環する 100 円バス。複数ホテルが連携し、バス停留所を整備。【宮城県】	P. 45 (6)
ポストバス	山岳観光地の遊覧バス。観光客はスイス国内の景色の良い複数ルートから選択でき、途中には景色を眺められる下車ポイントもある。バスでの郵便物輸送が発祥。【スイス】	—
都市内電気ミニバス（イタリア主要都市）	バス以外の車両が都市の中心部に流入することを規制。電気バスを使用し、環境にも配慮している。全都市共通の色、形で観光客にもわかりやすい。【イタリア】	—

表 4-1-3 二次交通の整備・拡充（その3）

路線名称	概要、特徴（工夫した点）【都道府県、国】	掲載
低廉なフリー乗車券		
会津ぐるっとカード	会津地区における鉄道事業者、バス事業者の運賃割引に観光施設等の割引特典を付加した低廉なフリー乗車券。【福島県】	P. 46 (7)
カンパニア・アルテカード	カンパニア州の主要な美術館や博物館、公共交通機関の料金割引等が利用できる低廉なフリー乗車券。3種類(3日、7日、365日)の有効期間が設定されている。【イタリア】	—
北東北ウェルカムカード	北東北圏内（青森県、岩手県、秋田県）において、外国人旅行者に対し、料金の割引やプレゼント等の各種特典を提供する低廉なフリー乗車券。英語・韓国語・繁体字の3言語表記によるホームページで海外に向け情報発信を行っている。【青森県】	—
二次交通自体の観光魅力の増大		
リゾートしらかみ	秋田駅始発の五能線回り弘前・青森へ運転される全車指定席の列車で、日本海の絶景ポイントでは速度を落として運転している。世界遺産の白神山地をイメージした車両は3タイプある。【秋田県、青森県】。	—
津軽鉄道ストーブ列車	真夏のストーブ列車としても運転しているユニークな列車で、暑い車内ではアイスクリームの販売等も実施。【青森県】。	—
スキー場へのシャトルバス（冬季の観光振興）		
ハンターマウンテン塩原・無料シャトルバス	J R 那須塩原駅、東武鬼怒川温泉駅から、ハンターマウンテン塩原（スキー場）へのアクセスバス。スキー場が運行委託している。公共交通機関を利用してスキーをしたい人、雪道での自動車の運転が苦手な人の利用を狙う。料金無料、事前予約不要、定員オーバー時の増便等が特徴である。【栃木県】	—
観光地における自家用車の規制（パークアンドバスライド）		
尾瀬・乗合タクシー	観光地のマイカー規制を実施している尾瀬において、自家用車から乗合タクシーに乘換えてもらう。【群馬県】	—
自転車の利用促進		
肥薩おれんじ鉄道「サイクル・トレイン」	肥薩おれんじ鉄道が貸し出す小型自転車を列車に積み込み、乗り降りできる。【熊本県、鹿児島県】	P. 47 (8)

4.2 事例の内容

(1) あきたエアポートライナー	秋田県
------------------	-----

1) 事例の特徴

- ・ 秋田空港（東北地方における航空旅客数2位）と県内の主要観光地を直接結ぶ事前予約制の乗合タクシー
- ・ 空港と観光地との所要時間短縮
- ・ NPO の参画

2) 運行事業者

- ・ 運営主体：あきた二次アクセスを進める会
地元の観光協会、交通事業者、空港関係者、観光業者等が中心となって設立された任意団体。運行は地域の運行会社（7社）に委託。

※あきた二次アクセスを進める会の事業内容

- ①あきたエアポートライナーの企画運営、運行会社との調整業務
- ②新規協賛会員の勧誘
- ③秋田空港を含めた二次アクセスの企画調整、情報の発信業務
- ④エリア内あるいは観光地間のアクセスの企画調整

[会の収支]

予算規模＝約 3,700 千円（H18 の場合、括弧内は予算に対しての比率）

主な収入：補助金／秋田県、県内各市町村（約 35%）
広告協賛会費／宿泊施設、観光施設、土産品 等（約 7%）
協賛会費／観光協会、空港ビル 等（約 55%）
事業部会費／運行会社（約 3%）
※負の繰越 約 1,200 千円

〔平成 17 年度に予約システムやパンフレットの印刷等の費用に対し、収入（会費及び補助金）が不足したため、次年度に繰り越したもの。平成 18 年度は、17 年度の負の繰越分を含めて予算組みをし、18 年度の収入（会費及び補助金）でほぼ消化の予定。〕

主な支出：予約システム管理費（約 55%）
観光案内業務委託費（田沢湖観光情報センター）（約 13%）
時刻表作成費（年 6 回程度）（約 12%）
広告宣伝費（約 17%）
電話代
その他（看板作成、振込み手数料、会議費等々） } （約 3%）

[運営上の課題]

- 会の収支が非常に厳しい
 - ・ 市町村 補助金に期限がある。
 - ・ 民間 必要性は充分感じるが費用対効果で考えると資金協力するに値しない。
- 運行会社
 - ・ 1 台当りの利用者が少なく経営上厳しい。
- 現在の IVR 受付システムの回線が少ないため申込の電話をしても話中が多くつながらない

3) 関係者及び協力者

- ・ 支援関係（国等からの補助金、税制関係等）
 - ・ 交通需要マネジメント等実証実験事業
 - ・ 公共交通活性化総合プログラム

- ・観光交流空間モデル事業
- ・行政機関等との関係（サービスを開始するに当たって、必要となる手続き等）
- ・貸切バスに対する乗合運送の許可

4) 導入の背景

- ・秋田県の主な観光地への入込み客の利用交通機関は、自家用車が 78.6% とかなり高い割合を占めており（平成 14 年秋田県観光統計より）、渋滞発生や自然環境に対して負荷を課している。また、秋田空港は秋田駅から離れており、二次交通が整備されていないため、観光客等にとって目的地までの時間的、費用的負担があった。
- ・秋田空港から直接主要観光地を結ぶ交通機関を配備することにより、レンタカーや自家用車の送迎を減らし利用転換を図るため、安価な料金で利用できる予約制の乗合タクシーを運行することとなった。

5) 運行システム概要

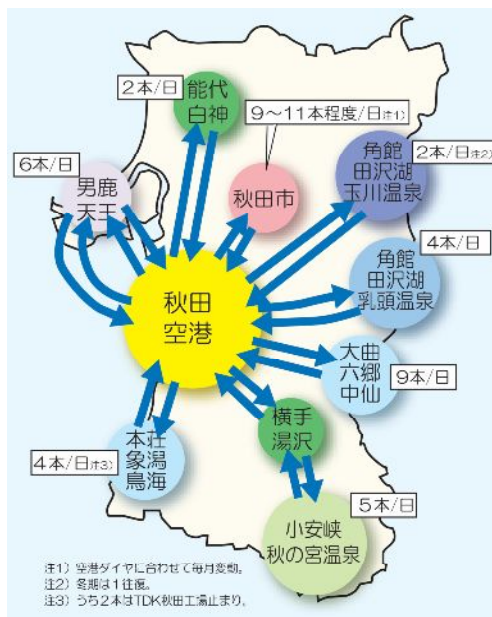


図 4-1 運行路線



図 4-2 乗合タクシー車両

※出典：あきたエアポートライナーホームページ

- ・複数の運行事業者が参加する中、情報の発信を集中的に行うため、集中予約センターを設置し対応。

6) 効果・成功の理由

- ・秋田空港発着のリムジンバスは秋田駅行きの路線に限られていた。
- ・空港と目的地（観光地）が直結され、時間・費用が削減された。
- ・実証実験開始当初は秋田県内の主要な観光スポットを中心として運行されたが、その後徐々にエリアを拡大し、隣県等の観光地まで取り組むなどして広域化を図った。
- ・運営主体の「あきた二次アクセスを進める会」は地元の観光協会、交通事業者、空港関係者、観光業者等が中心となって設立された任意団体であり、直接の運行は賛同してくれる交通事業者が行っている。
- ・過去の利用実績 （平成 14 年度）1,847 人 （平成 15 年度） 8,771 人
（平成 16 年度）13,487 人 （平成 17 年度）16,167 人

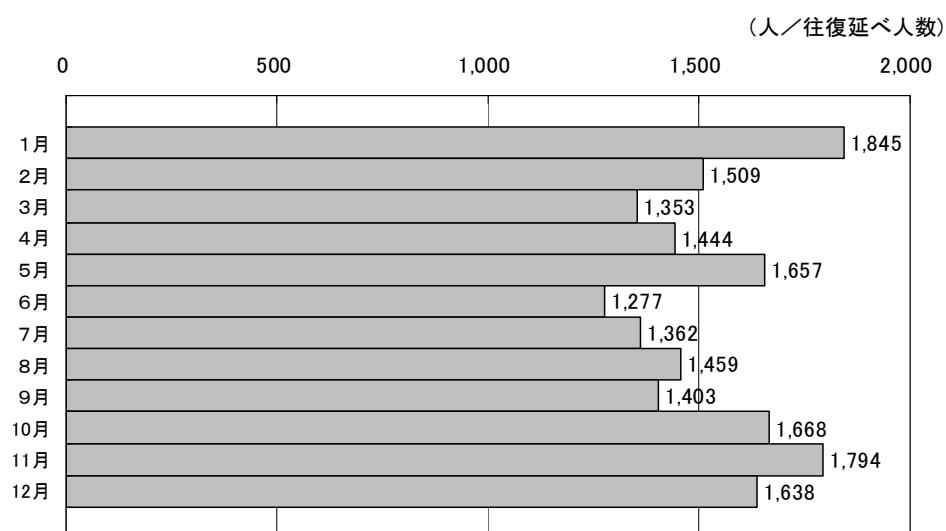


図 4-3 月別輸送実績（平成 18 年）

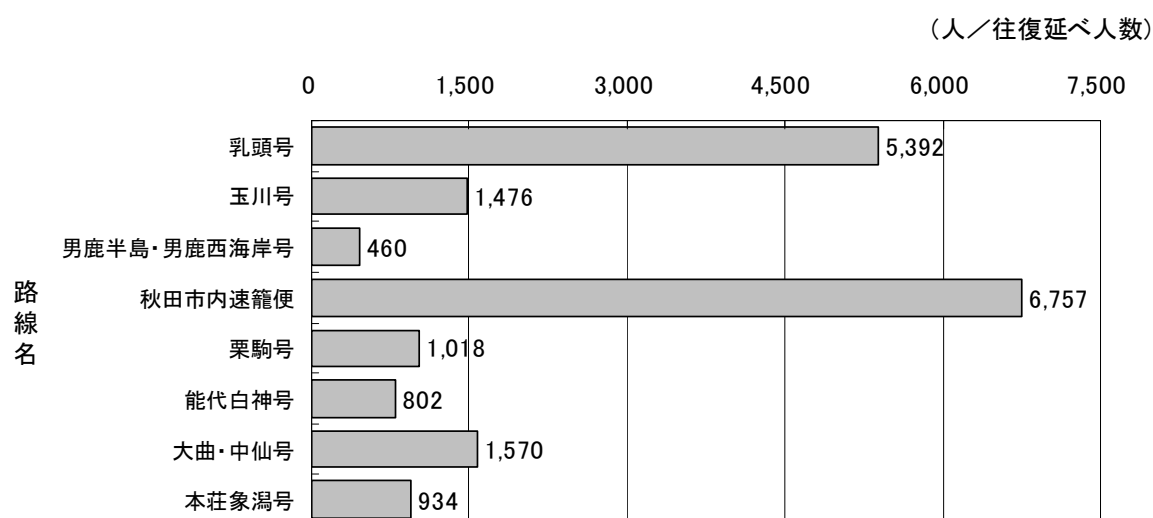


図 4-4 路線別輸送実績（平成 18 年）

※ 1 便あたりの
乗車人数

表 4-2 路線別運賃・本数・所要時間（平成 18 年度）

終 点	便 名	運賃 円/片道	本 数 本/日・片道	所要時間 分
秋田市内A地区	あきたエアポートライナー・速籠便	1,300	12	45
秋田市内B地区	あきたエアポートライナー・速籠便	1,500	12	45
乳頭温泉郷	あきたエアポートライナー・乳頭温泉号	3,000	4	130
男鹿温泉郷	あきたエアポートライナー・男鹿半島号	3,000	3	80
男鹿西海岸	あきたエアポートライナー・男鹿西海岸号	3,400	3	140
玉川温泉	あきたエアポートライナー・玉川温泉号	4,600	2	155
能代・白神	あきたエアポートライナー・能代・白神号	4,000	1	120
大曲・中仙	あきたエアポートライナー・大曲・六郷・中仙	2,500	9	70
本荘・象潟	あきたエアポートライナー・本荘・象潟号	4,000	2	125
小安・秋の宮・栗駒	あきたエアポートライナー・小安・秋の宮・栗駒号	6,800	4	160

7) 周辺の代表的な観光地

角館、田沢湖、玉川温泉、乳頭温泉、男鹿半島、白神山地等

■参考（あきた二次アクセスを進める会 平成 18 年度 事業計画）

秋田県内の主要高速交通ターミナルおよび観光地間の 2 次アクセス、3 次アクセスの構築をすすめ、それらをネットワーク化することで秋田県への誘客を促進する。

1. エアポートライナーのさらなる利用者拡大に向け路線別集客策を強化する。
 - 1) 地元行政・関係施設・住民への周知徹底を図り、地元住民に積極的に利用してもらうことにより県外への情報発信につなげる。
 - 2) 利用者・関係施設からの要望を運行事業者と協議し、利用者増に向けて改善策を検討する。（便数・ダイヤ・ルート・乗降場所・新規路線・受付時間・申込方法 等々）
2. 秋田空港以外の高速交通（大館能代空港、JR、秋田内陸鉄道）とのアクセスのネットワーク化を具体化する。

あきたエアポートライナーと他の交通機関と組み合わせてモデルプランを作成。
あきたエアポートライナーホームページや時刻表、秋田県観光情報サイト「あきたファンドットコム」から情報発信する。また、観光協会や宿泊施設、運行会社からもモデルルートとして県外客へ紹介してもらう。
3. 地域内アクセス（3 次アクセス）を具体化させる。
 - 1) [田沢湖～角館～六郷]のエリア内アクセス
 - 2) 乗降客の多い、角館や乳頭温泉を基点としその周辺観光地を結ぶアクセス
 - 3) [角館～男鹿]のような主な観光地を直接結ぶアクセス
4. 県内の各宿泊施設、観光施設、運送事業者、各市町村や観光協会、県観光課、地域振興局、県外事務所等と連携し広告宣伝を実施する。

1) 事例の特徴

- ・ 事前予約制の乗合タクシー
- ・ 需要に応じた車両の調達
- ・ ゾーン別の事業者委託

2) 運行事業者

- ・ 実施主体 社団法人石川県バス協会
- ・ 運行委託 港観光バス（株）、スズ交通（株）、（有）恋路観光バス、
（株）中島タクシー、（有）能登金剛タクシー、5社

3) 関係者・協力者

- ・ 関係自治体
- ・ 支援関係（国等からの補助金、税制関係等）
バス利用促進等総合対策事業 約5,150千円（平成15年7月7日～約1年間）
- ・ 行政機関等との関係（サービスを開始するに当たって、必要となる手続き等）
道路運送法21条の乗合許可を取得。

4) 導入の背景

能登空港の利用促進のためには、2次交通の確保が重要な課題であり、団体客やレンタカー利用者以外の旅客が、手軽にかつ低廉に目的地まで行けるよう、事前予約による乗合タクシーを運行することとした。

5) 運行システム概要

- 能登地域を5つの運行ゾーンに分け、能登空港発着便（1日出発2便、到着2便）にあわせて運行。

- ・ 運行ゾーン

- | | |
|--------------|-------------|
| 1. 輪島市、穴水町 | 港観光バス（株） |
| 2. 珠洲市 | スズ交通（株） |
| 3. 能都町 | （有）恋路観光バス |
| 4. 七尾市、中能登町 | （株）中島タクシー |
| 5. 羽咋市、安達志水町 | （有）能登金剛タクシー |

- ・運賃ゾーン 行政区域ごとに 700 円～1,800 円までの 5 種類
 1. 輪島市（旧門前町を除く）、能登町、穴水町 700 円
 2. 珠洲市、旧門前町、能都町（旧内浦町） 1,000 円
 3. 七尾市、中能登町 1,300 円
 4. 志賀町 1,500 円
 5. 羽咋市、安達志水町 1,800 円

●人数の多い場合は、バス車両等で対応

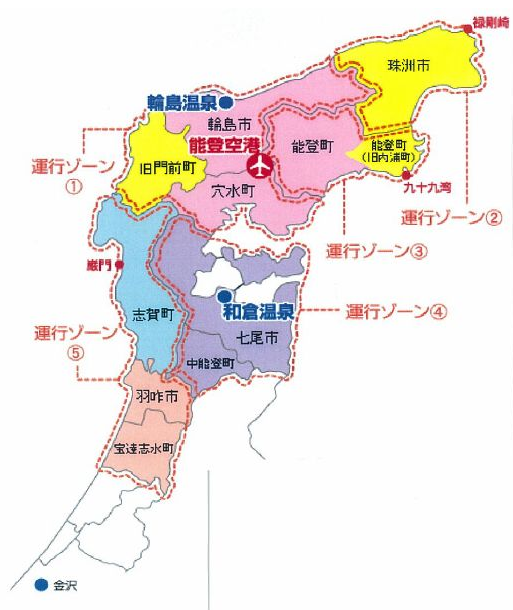


図 4-5 運行ゾーン



図 4-6 乗合タクシー車両

※出典：「能登観光ポータルサイト のとねっと」 ホームページ

6) 効果・成功の理由

・開港後 1 年間のコース別利用者数（平成 15 年 7 月開港）

	（開港～16 年 6 月）	（16 年 1 月～10 月）
1. 輪島市、門前町	6,535 人	5,766 人
2. 珠洲市、柳田村	3,843 人	3,377 人
3. 穴水町、能都町、内浦町	3,367 人	3,558 人
4. 七尾市、鹿島郡	11,032 人	17,747 人
5. 羽咋市、羽咋郡、河北郡、金沢市	2,730 人	3,024 人
合計	27,507 人	33,472 人

（成功の理由）

- ・石川県が中心となって推進する能登空港の利用促進に関する諸施策の一つとして、関係自治体との連携、首都圏における観光客等誘致 P R 活動を積極的に行ったことにより、能登空港利用者も当初の予想を大幅に上回る利用となっている。

- ・二次交通の利用者数においては、輪島行き路線バスに比べてふるさとタクシーの利用者数の方が多く、公共交通機関が発展していない過疎地域等のモデル形態として定着しつつある。
- ・当初、乗合方式に対する事前PRが不足したことによる戸惑いもあったが、乗務員等の適切な対応により次第に浸透し、リピーター利用客も増加した。
- ・わかりやすさを重視した案内サイン等、施設面での工夫も功を奏した。

7) 周辺の代表的な観光地

輪島朝市（輪島）、和倉温泉（七尾）、巖門（能登金剛）、千里浜（羽咋）等

(3) 高速バス（仙台～庄内線）の湯野浜温泉への経由 山形県

1) 事例の特徴

- ・都市間高速バスの路線を観光地経由へ変更

2) 運行事業者

庄内交通株式会社

3) 運行の概要

平成 18 年 4 月 1 日から都市間高速バス〈仙台～庄内線〉の湯野浜温泉への一部便の乗り入れを開始。1 日 1 便を鶴岡市経由から湯野浜温泉経由に変更した。

- ・料金 仙台駅～湯野浜温泉間

片道 大人 3,100 円 小人 1,550 円 （平成 18 年 10 月改訂）

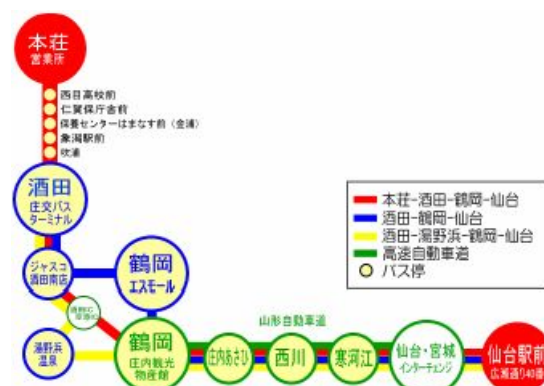


図 4-7 路線図

※出典：庄内交通株式会社ホームページ

(4) 庄内地域の高速バス停のターミナル化

山形県・鶴岡市

1) 事例の概要

- ・交通結節点の利便性向上

2) 運行事業者

- ・庄内交通株式会社
- ・山交バス株式会社 等

3) 関係者・協力者

- ・地元観光物産施設の協力（用地の提供等）

4) 導入の背景

- ・庄内地域の観光客入込み数は平成 14 年度に 961 万人、平成 15 年度では 1,128 万人と増加傾向にあり、主に仙台方面の高速バス利用者が多い。
- ・鶴岡市内のバスターミナルまで行かなければ主な観光地へアクセスできない等の問題点があった。

5) 事業の概要

- ・鶴岡 I C（庄内観光物産館）バス停をターミナル化した。鶴岡・酒田・本荘⇄仙台線、鶴岡・酒田⇄山形線の高速バス、および鶴岡市内循環バスが停車。
- ・パークアンドライドの施設を備えた多機能な高速バス停。
- ・庄内観光物産館とあつみ温泉を結ぶ予約制乗合タクシー「あつみ温泉あい乗り号」が運行されている。また、湯田川温泉～庄内観光物産館～庄内空港を結ぶ予約制乗合タクシー「まっすぐタクシー」が運行されている。

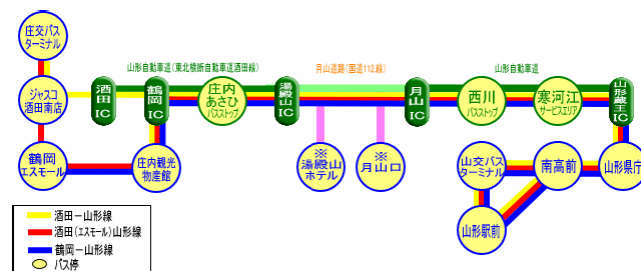


図 4-8 鶴岡・酒田・本荘⇔仙台線 路線図

図 4-9 鶴岡・酒田⇔山形線 路線図

※出典：庄内交通株式会社ホームページ



図 4-10 庄内観光物産館・バス停

図 4-11 庄内地域 観光マップ

※出典：庄内観光物産館ホームページ

6) 効果・成功の理由

- ・地元観光物産施設の協力（用地の提供等）による交通結節点（バス・タクシーターミナル）の整備
- 公共交通相互の乗継ぎ円滑化・利便性向上
- 地域の協力の下での公共交通の利用促進

7) 周辺の代表的な観光地

鳥海山、あつみ温泉、湯野浜温泉、湯殿山、月山、羽黒山、最上川舟下り等

1) 事例の概要

- ・生活交通路線の活用
- ・NPO の参画

2) 運行事業者

- ・運営主体 （特定非営利活動法人）しずくいし・いきいき暮らしネットワーク
- ・運行主体 （有）雫石タクシー

3) 関係者・協力者

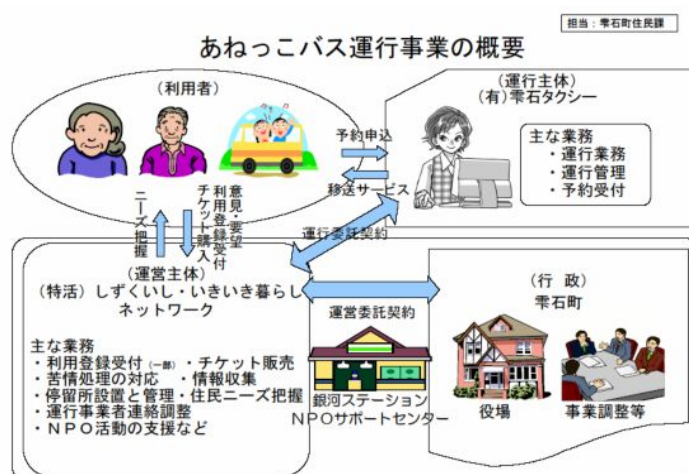
- ・雫石町

4) 導入の背景

町内路線バスが平成 16 年 3 月末で廃止となり、平成 16 年 4 月より町内の生活交通の確保のため、既存のバス路線を基本とした、デマンド形式で運行する乗合タクシー方式のフレキシブルバスの運行を開始することとなった。

5) 運行システム概要

JR 雫石駅を起点に町中心部から放射状に 6 路線を運行。行政(雫石町)からの委託を受けて NPO 団体が運営を行っている。



※出典：雫石町役場「しずくいしデマンド あねっこバス」ホームページ

- ・ 路線・・御明神線、西山線、西根線、小岩井線、鶯宿線、大村線 の6路線
道の駅（雫石あねっこ）にバス停、及び予約専用直通電話が設置され、
道の駅でチケット（回数券）の購入もできる。
- ・ 便数・・平日 全路線6往復
土日祝日 全路線「上り」1便、2便、3便 「下り」2便、3便、5便

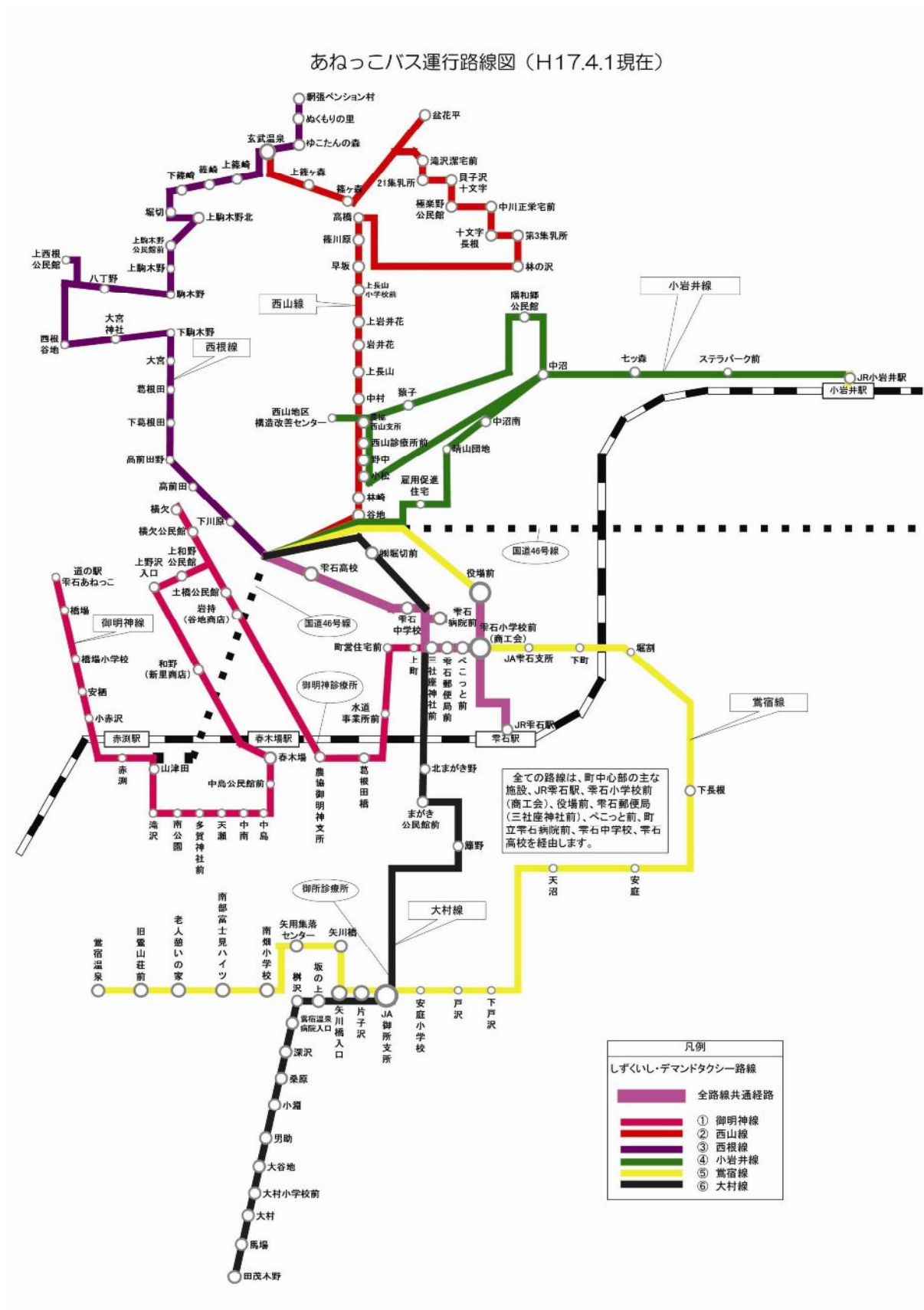


図 4-13 運行路線

※出典：零石町役場「しずくいしデマンド あねっこバス」ホームページ



図 4-14 車両

- ・予約方法…電話により、利用する便の始発時刻 30 分前（12 月～3 月までの冬期間は 1 時間前）までに予約が必要。ただし、始発便については、前日に予約が必要。受付時間は、午前 8 時～午後 6 時まで。

- ・予約専用電話の設置場所

(1) 町立雫石病院	雫石町万田渡	(6) まちの駅ぶらっと	// 上町
(2) 雫石町役場	// 千刈田	(7) 御所診療所	// 西安庭
(3) 雫石銀河ヶ丘	// 寺の下	(8) 御明神診療所	// 上野
(4) 道の駅雫石あねっこ	// 橋場	(9) 清水商店	// 長山猿子
(5) お休み処ぺこっと	// 中町	(10) ナカノ商店	// 西根駒木野

- ・利用登録…小学生以下は登録が必要。町内のホテル、旅館、民宿への宿泊者の団体登録も可能。

- ・利用料金

一般利用者	}	一路線ごと一律 200 円
中学生		
高校生		
障害者		
65 歳以上の方		

小学生以下	}	一路線ごと一律 100 円
-------	---	------------------

※未就学児は、保護者同伴の場合のみ、無料。

- ・チケット販売

<回数券>

200 円券（11 枚綴）…2,000 円

100 円券（11 枚綴）…1,000 円

<定期券>

路線ごと（1 ヶ月）…8,000 円（小学生は半額）

路線ごと（3 ヶ月）…21,000 円（小学生は半額）

6) 輸送実績

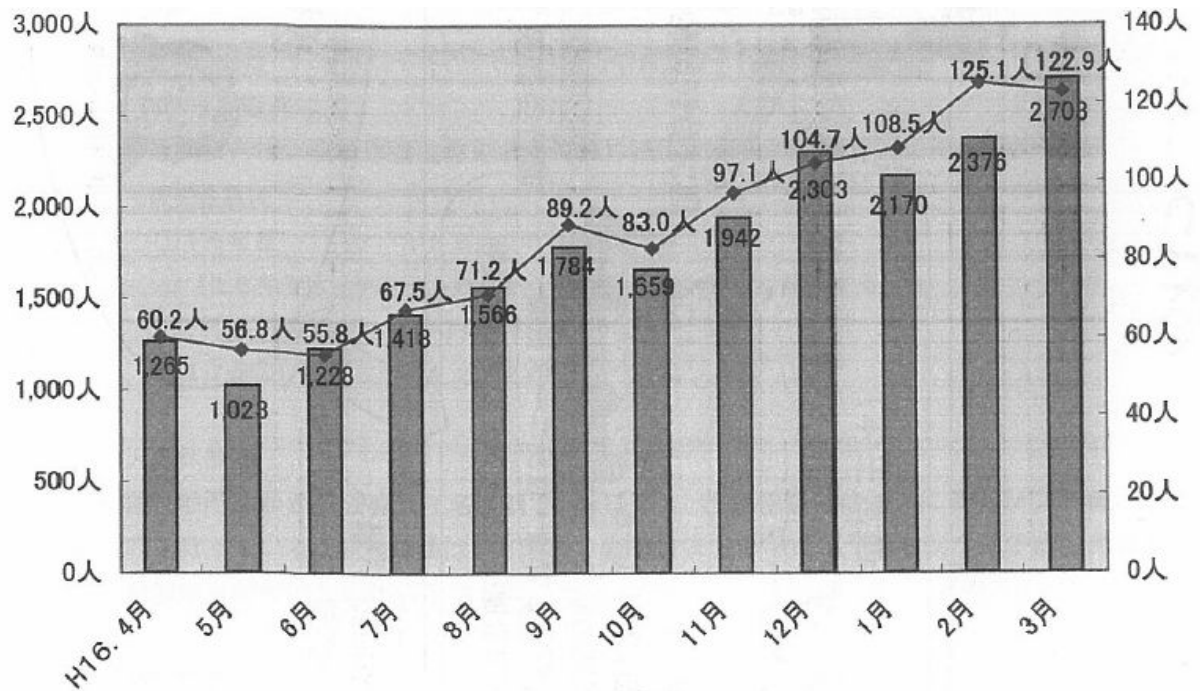


図 4-15 平成 16 年度の輸送実績

7) 周辺の代表的な観光地

鶯宿温泉、長山（網張）

小岩井農場（当該路線の停留所からは離れている）

(6) 松島循環 100 円バス	宮城県
------------------	-----

1) 事例の概要

- ・ 観光地内の回遊

2) 運行事業者

松島国際観光株式会社

3) 運行の概要

松島の観光地内を循環する 100 円バス。複数ホテルが連携し、バス停留所を整備。

1 日 22 便（片道）、1 時間に 2 本を運行（7 時 40 分始発～19 時 9 分終着）。



東北本線松島駅ゆき									仙石線松島海岸駅～ホテル大観荘ゆき								
1▶	2▶	3▶	4▶	5▶	6▶	7▶	8▶	9▶	10▶	11▶	12▶	13▶	14▶	15▶	16▶	17▶	
バス停留所	ホテル松島大観荘	JR仙石線松島海岸駅	マリンピア松島水族館	松島中央観光協会前	瑞巖寺・観光協会前	JR仙石線松島海岸駅	マリンピア松島水族館	ホテル松島大観荘	ホテル松島大観荘	ホテル一の坊	ホテル海風土	かき小屋	ホテルニュー小松	松島中央観光協会前	福浦島入口	松島観光協会前	瑞巖寺・観光協会前

図 4-16 停留所マップ

※出典：松島国際観光株式会社ホームページ

1) 事例の概要

- ・ 低廉なフリー乗車券

2) 関係者・協力者

- ・ 会津地域 11 市町村及び観光協会、商工会
- ・ エリア内の観光施設・お土産店
- ・ J R 東日本、会津乗合自動車、磐梯東都バス、会津鉄道
- ・ 国土交通省東北運輸局
- ・ 国土交通省郡山国道事務所

3) 導入の背景

会津地域の広域観光の推進と地域の公共交通の活性化を図る目的で、会津地区における鉄道事業者、バス事業者の運賃割引に観光施設等の割引特典を付加したフリー乗車券の発売を開始した。

4) 利用条件等

カードの提示により、利用エリア内の JR 線・会津鉄道・会津バス・磐梯東都バス・まちなか周遊バス「ハイカラさん」が 2 日間乗り放題となる他、観光施設や宿泊施設・飲食店などの割引サービスが受けられる。

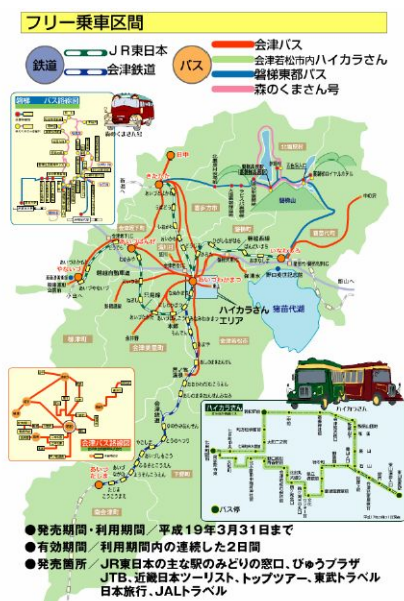


図 4-17 利用エリア



- ・ 利用料金：大人 2,600円
子ども1,300円
- ・ 規格 クレジットカードサイズ

図 4-18 会津ぐるっとカード

※出典：会津若松観光物産協会ホームページ

(8) サイクルトレイン（肥薩おれんじ鉄道）

熊本県、鹿児島県

1) 事例の概要

- ・ 自転車の利用促進

2) 運行事業者

肥薩おれんじ鉄道株式会社

3) 導入の背景

- ・ 駅からの二次アクセスの改善により鉄道の利用増を図る。
- ・ 自転車ごと乗車を可能にすることで、沿線観光の利便を図る。

4) 運行システム概要

肥薩おれんじ鉄道が貸し出す小型自転車を列車に積み込み、乗り降りできる。

- ・ 利用できる区間・肥薩おれんじ鉄道全区間（熊本県八代駅～鹿児島県川内駅間）
- ・ 利用できる列車・通勤・通学時間帯を除く 9 時～17 時頃までの指定した列車。
- ・ 貸出、返却・八代駅、新水俣駅、水俣駅、川内駅（借受け、乗捨て自由。）
- ・ レンタル料は有料（4 時間以内は 500 円、4 時間超は 800 円）だが、積載料は無料。一列車につき三台まで乗車できる。

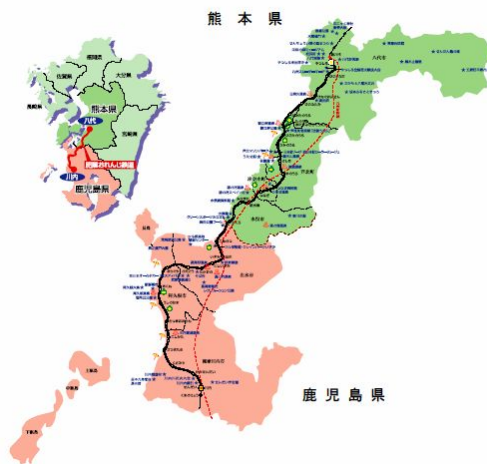


図 4-19 路線図



図 4-20 利用の様子

※出典：肥薩おれんじ鉄道株式会社ホームページ

5) 周辺の代表的な観光地

湯の児スペイン村・福田農場、御立岬等

